

冬期テキスト

必修編

国語

中学 1 年



演習問題

次の古文を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

等楊は、小さい頃、寺に預けられたが、修行をせずいつも絵ばかり描いていた。

等楊十才の頃、とにかくに描く事をやめぬ故、ゆゑ、師の御坊堂の柱に

縛りつけ戒む。然れども哀れみて、日暮に及び縄を解かんとて行き
しば
いま
しか
(2)あは

給ふに、等楊が膝の下より數十匹のねずみ、驚き騒ぎ走り回る。
等楊の漆の下かづ

急にこのねずみを追ふ。^A 御坊怪しみて見給ふに、等楊縛られて一

日の落つる戻の商レタりを足の親指につけて縁板にねずみを描く。その

一日に落とした涙のしづくを
縁側に張った板 めう

いきほひあたかも生けるねずみのごとし。師の御坊その妙を感じて、
その様子はまるで ようだ そのすばらしさに感動して
これより描くことを戒めず。

とがめなかつた

等楊二十一才の年、郷人に蝶の絵を望まれて描く。草花に蝶の戯たほ。

同郷の人

れ遊びける体を描くに、
傍らの猫、眞の蝶と思ひて絵に飛びつく。

回る様子を描いたところ

人々奇異の思ひなしてその筆の妙を感じける。

感心した

「草双紙」より

（注）等楊^{むろまち}・室町時代の画僧^{がそう}で雪舟^{せつしゅう}のこと。

工等楊が絵に描いたものは動き回るので、人々は恐れた

1

問1 歴史的仮名遣い　＝線A「追ふ」、B「いきほひ」を現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

問2 内容理解――線①「堂の柱に縛りつけ」とあります
が、なぜ縛りつけたのですか。「等楊が……」に続くよ
うに、二十字以内で書きなさい。

問3 主語——線②「哀れみて」とありますが、誰が哀れんだのですか。古文中から抜き出しなさい。

問4 内容理解——線③「數十匹のねずみ」とあります。が、このねずみが現れた理由がわかる部分を古文中から三十四字で抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

問5 内容理解――線④ 「絵に飛びつく」とあります。その理由を、「……から。」に続くように、十字以内で書きなさい。

- 10 -

から

問6 内容理解 この文章の内容に合っているものを次から一つ選び、記号で

ア 師の御坊は等楊の絵の才能が見抜けず、絵筆を取り上げた。
ア 師の御坊は等楊の絵の才能が見抜けず、絵筆を取り上げた。

イ 師の御坊は等楊に絵を描かせて、人々を驚かせた

エウ 等楊の描いた生き物の絵は生きているようであった。等楊が絵に描いたものは動き回るので、人々は恐れた。

弊社サンプルをご覧いただき、
ありがとうございました。



紙面サンプルは ここまでです！

Bunri Teachers' Site へのご登録で、
全ページ見本[※]と目次をご覧いただけます。

※一部教材を除く

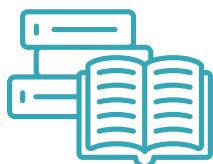
会員登録はこちら



Bunri Teachers' Site とは？

株式会社文理が運営する、塾・学校の先生方のための情報サイトです。

文理の教材紹介



デジタルサービスや
テストのお申込み



教育情報の発信



オンラインセミナー
のお知らせ

